

タフで優しい人であれ！浦高の5年

●前浦和高校校長・杉山剛士先生のお話から！



2月3日(日)17時から、春日部地区浦高会賀詞交換会で、18時からの懇親会の前に、浦和高等学校前校長の杉山剛士先生をお招きして「浦高の5年間を振り返って」というテーマでお話いただきました。出席者は28名でした。

◇ ◇

◆浦高の5年間を振り返って

杉山剛士先生(埼玉県立久喜高校教頭(参与))

1. はじめに

■平成25年4月～30年3月(第29代校長)

皆さん、こんにちは。昨年3月30日まで浦和高校の校長を務めておりました杉山です。校長を退いて約1年間が経ちますが、今日は浦高の5年間を振り返って思い出や改めて浦高はどういう学校であったかというお話をさせていただきます。昨年3月に退職をして現在は久喜高校にデスクを置きながら、東部地域の各校を回らせていただき、校長先生たちの相談を受けるという仕事をさせていただいています。役職として教頭職ということで肩書きは久喜高校教頭(参与)となっています。私の隣の席にはマラソンの川内優輝君が座っていますが、非常に好青年です。

■最初の印象

一教育の王道を歩みながら進化している学校一さて、浦高の第一印象についてお話ししますと、浦高では毎朝、教職員による朝会が行われるのですが、赴任早々の朝会で就任と始業の挨拶をすると、非常に簡潔な打ち合わせが行われて、直ぐに先生たちはそれぞれの教室に向かっていくのですね。全くムダの無い緊張感のある朝会でした。そして、歴代の校長や教職員で作りに上げてきた「教育の王道を歩みながら進化している学校」というのが私の第一印象でした。それは、「知・徳・体」をベースにした教育をしている学校ということでもあります。その印象は5年間経っても変わりません。

◇ ◇

2. 浦高の思い出

■ラグビー花園出場(H25年度)

浦高の5年間の思い出をお話ししたいと思います。昨日、平成30年度高校ラグビー新人戦埼玉県大会決勝が行われ、浦高が立教新座を破り優勝を果たしましたが、私が着任した平成25年度は、ラグビー部の全国大会、花園出場がありました。昭和43年以来54年振りの快挙でした。

嬉しかったことは言うまでもございませんが、大変残念なことに県大会決勝で大きな怪我人を出してしまったという2つの思い出がございます。怪我のことは後ほどお話しいたします。

■スーパーグローバルハイスクール指定(H26年度) →ケネディさんの浦高訪問(H27年度)

国際社会の中で、語学力だけでなく、社会の課題に対する関心や教養、コミュニケーション能力、問題解決能力などを身に付けたグローバル・リーダーの育成を目指している学校に対して、文部科学省がスーパーグローバルハイスクール(SGH)と指定する制度があり、浦高が26年度に指定されました。そして驚いたことに、翌年12月にケネディ米国駐日大使が浦高を訪れました。警備や準備で大変だったのですが、ご本人は非常に気さくな方で学生たちの質問に答えられ、教室でも授業を見学されました。浦高一女もSGHに指定されていたので、一女の生徒も呼んで懇談したのですが、浦高生よりも女性たちの方が活発だったのですね。最後にケネディさんから「好きな歌は」と問われて「校歌」ということで校歌を斉唱し、応援団が「フレッ、フレッ、ケネディ」とエールを贈りとても喜ばれました。

■臨海学校の弓ヶ浜への回帰(H27年度)

東日本大震災や南海トラフ地震への懸念から、平成24年に臨海学校の場所を慣れ親しんだ静岡県弓ヶ浜海岸から新潟県瀬波海岸に変更しました。地元の方々も非常に温かく迎え入れてくださり、水温も温かく波も小さくて良かったのですか、どうしても伝統を守りたいということと、弓ヶ浜でも津波対策などを強化されたことで、平成27年度に戻ることができました。県内の高校で臨海学校が無くなる中で、浦高はまだ残っています。

■水泳部戸澤淳也君国体200m平泳ぎで全国優勝(H27年度)

水泳部の戸澤君だけでなく、この後にもありますように、運動部も文化部も非常に優秀な成績を残しています。

■高校生クイズ全国制覇(H27年度)

8月下旬に優勝していたのですが、9月15日放送まで口止めされていたということで、出場者も報告を受けた私もひと言もいえなかったのが苦しい思い出です。彼らは家族にも報告できなかったそうです。

■創立120周年記念式典(H27年度)

記念式典では川野同窓会会長から奨学財団設立の報告をいただき、その奨学金でミシガンセミナーに参加した設楽君が堂々と英語でスピーチを行いました。内容はミシガン大で韓国や中国の留学生と出会い、彼らの語学力との違いを体感したことでした。内容も素晴らしく奨学金制度に感謝しています。

最後に「威風堂々」を吹奏楽部、室内楽部、グリークラブ、応援団で演奏して大変盛り上がりました。

■東大合格者数⇒エアコン設置 (H27~28 年度)

平成 27 年度の東大合格者数が 22 名になった時にさまざまなご意見をいただきました。そんな中で、PTA の皆さんから「生徒たちのためにエアコンを入れましょう」という話が持ち上がりました。アンケートを行うと 1 年生は賛成多数、2 年生が 6 割、3 年生は反対という結果になりました。反対の理由が「エアコンを入れると浦高魂がなくなる」というものでした。ある 3 年の生徒が私の所に来て反対の理由と浦高魂について語りました。私は彼に PTA 総会で彼の反対意見を伝えると約束して伝えましたが、浦高生の思いを知る機会でもありました。

■科学の甲子園全国大会出場 (H28、29 年度)

■グリー部全国制覇 (H29 年度)

※そのほか、囲碁将棋部の全国制覇をはじめ各部活動の全国大会出場(カヌー、ボート、陸上、弓道、オリエンテーリング、英語、室内楽、工芸)、バスケット部村越君の U19 日本代表選出。他の部活動も関東大会出場や県大会上位に。

男性だけの合唱というのは難しく、さらにこの年に選んだのは無伴奏の曲でしたが、彼らは愚直にやって金賞に入賞し、それで喜んでいたら最優秀賞をいただくことができ無欲の勝利でした。

■壮行会での「正々堂々」のコール

各部活が全国大会に向かう時に話す言葉ですが、「正々堂々」の語源について話します。『孫子』の兵法に「正正の旗を邀(むか)えること無く、堂堂の陳(陣)を撃つこと勿(な)し。此れ変を治むる者なり」とあります。兵法の観点からすると、正正の旗を揚げ、堂堂の陣を構えているような軍隊は最強の軍隊であるので、決して迎え撃ってはいけません。それが変化に打ち勝つ兵法だと説いているのです。それぞれの部活の理念を高々と掲げ、ピンチにおいても仲間を信頼してそれぞれの役割に徹するチームは強い。さぁみんな頑張れと説き、私が「正々」と叫ぶと、全生徒が「堂々」と大声で答えるのです。それを 3 回繰り返すのですが、浦高の良い思い出になっています。

■毎朝の机拭きとハガキ表彰状

生徒たちへのハガキ表彰状は前任の関根校長から引き継いだものです。生徒を校長室に呼んで話をし、良い所を表彰し、その表彰状を家庭に送るのです。年間に 1500 通近く送っています。5 年間ですから 7500 通になったと思いますが、浪人生にも送っています。

■メディアからの注目と本の出版

さまざまなメディアから注目されるのは浦高生にとっても嬉しいことです。佐藤優さんと共著の『埼玉県立浦和高校』もそれほど売れないだろうと思っていたら 4 刷 28000 部が出ています。



3. 改めて浦和高校とは

■浦和高校の教育理念のすばらしさ

・尚文昌武(少なくとも三兎を追え)、無理難題に挑戦しろ、守破離、世界のどこかを支える人間になれ

浦高にはさまざまな言葉が残っています。「尚文昌武(しょうぶんしょうぶ)」は「文武両道」の意味ですが、「知・徳・体」のバランスのとれた人材を育てていこうという大きな理念です。「無理難題に挑戦しろ」は、勉強・部活・行事の全てに挑戦することですが、安易に生徒に無茶を押し付けているのではなく、教職員の行き届いた配慮が随所にあり、目立たないけれどもきめ細かい支援もあってのことです。そして「守破離」は芸道で使われますが、型を知り、身に付け、その型を破り、やがて離れていくのが浦高での 3 年間であります。そして、こうした理念は何のためにあるのかと言えば、「世界のどこかを支える人間になる」というリーダー育成のためなのです。こうした教育理念が、教職員にも生徒たちにも明確になっているのが浦高の強みだと思います。

■浦高の現代教育界に発信している価値

・進学指導と全人教育の両立(その手法は「信頼関係と集団力」)

・生徒が楽しく「生活」している学校(仲間と過ごす最高の時間・空間の提供)

信頼関係は教職員と生徒の間、生徒間で強いものがあります。浦高生は朝 7 時に登校し、朝から一緒に勉強して部活を終えても教室に戻って、夜 9 時までまた一緒に勉強するという生活をしています。塾に行く学校が多い中で、浦高生の塾通いは通常で 10%程度、模試などで 30%程度ではないでしょうか。進学校としては非常に低いものです。生徒たちは学校が楽しく生活できる空間であり、最高の時間なのです。それは、彼らの集団力の強さから生まれています。

■他の学校が真似できないところ

・文化の大切さ(強歩大会と臨海学校)

・「新世紀構想」を実現させた管理職と教員集団

・生徒、教員、保護者、同窓生が一体となっている学校(奨学財団の着想)

浦高には他校が真似のできない部分がたくさんあります。それは強歩大会や臨海学校など諸先輩が作り上げてきた文化があるからだと思います。公立学校の多くは私立学校が台頭してくる中で、多くの学校行事をやめてきました。ところが、浦高はますます盛んになっています。それは浦高が掲げる「新世紀構想」にある全人教育であり、生徒、教員、保護者、同窓生が一体となっている学校だからだと思います。みんなが浦高の理念を理解・共有して同じ方向を向いている学校はそう多くはありません。特に、同窓会の奨学財団の着想、そしてグローバル人材の育成は素晴らしいものです。

■浦高への期待と課題

- ・タフで優しい生徒であれ。そのためにも「広き宇内に雄飛せん」
- ・文明史に貢献せんとする浦高生への期待
- ・「大物」あるいは「尖った人材」をいかに生むか

浦高への期待と課題については、5年間言い続けてきたことですが、1つ目は「タフで優しい生徒であれ」です。グローバル化していく変化の中で不透明な社会を生き抜いていくためには、「知・徳・体」すべてにおけるタフさが必要です。それは何があってもくじけない力です。精神的、知的、健康的、体力面でのタフさです。ただ自分だけが競争に勝てばよいというのではなく、他者に対する共感力、弱者の痛みを感じる優しさも持ち合わせていなければいけないということです。中高生の間は失敗を恐れずに「広き宇内に雄飛」して欲しいと願います。

2つ目の「文明史に貢献せん」とは志の高い人間になってほしいということです。

3つ目の「大物」「尖った人材」とは、現在の浦高生はこじんまりとまとまっていて、尖った人材がないということです。これは教職員が一生懸命に育てているという裏返しの関係かもしれません。



4. 終わりに

■皆さんへの感謝とお願い

最後に皆様への感謝とお願いです。5年間ではございましたが、浦高同窓会の皆様にはさまざまな面で支えていただきました。川野会長、木村会長、さらには春日部地区の根本会長、常任理事の香田さん、PTA副会長の由木さん、そして多くの皆様にお世話になりました。ありがとうございました。昨年4月からは浦高を卒業された小島克也先生が校長を務められていますので、ますますのご支援をお願いいたします。

そしてお願いが2つです。まず小さなお願いです。埼玉県元教育長の稲葉喜徳さんの監修で『ポケットいっぱい幸せ』という本が2012年から5冊出版されました。教員向けの本ではありますが、そこには子どもたちを励まし勇気づける「言葉」が綴られています。今回は稲葉さんから引き継いで私が監修

を行い、私も「11 チャレンジする定時制高校」「16 受け継がれる強歩大会」「30『守破離』の教育論」などで浦高の話を書きました。また宇宙飛行士の若田光一さんからの英語でのメッセージなどもいただき、佐藤優さんからの寄稿もいただきました。そんな『ポケットいっぱい幸せ6』をお買い上げいただければというお願いです。

最後に大きなお願いです。5年間の在任中にラグビー部で2人の生徒に大きな怪我をさせていただきました。1人は後藤君です。25年度の花園大会への出場をかけた県大会決勝で頸椎損傷の大怪我を負いましたが、多くの皆様のご支援と懸命なリハビリにより慶應に進学し、今年3月に無事卒業することになりました。就職も一般枠で応募して大手広告代理店への就職も決まり、自立への道を歩んでいます。もう1人の涌井君も練習試合で大怪我をして1年間浦高を休学、復学して昨年3月に卒業しました。リハビリを続けながら1年間の浪人生活を送り、現在も大学受験に挑戦しています。



これからも、2人へは物心両面での支援が必要と考えますので、同窓会の皆様方のご支援をお願いいたします。

ちょうど時間となりました。本日はありがとうございました。



杉山先生の講演を終えて、全員での記念撮影18時から懇親会になりました。懇親会の中では、根本会長(16回)のご挨拶、三輪顧問(15回)から乾杯のご発声、7名の会員からの近況報告(1年の活動報告、本の紹介、健康の秘訣、仕事の話など)があり、岩本幹事(22回)の「黒田節」もあり和気藹々とした宴になりました。今回は白岡在住の鈴木利男さん(17回)がオブザーバー参加してくださいました。感謝!